

なぜ住宅街にフクロウが?!



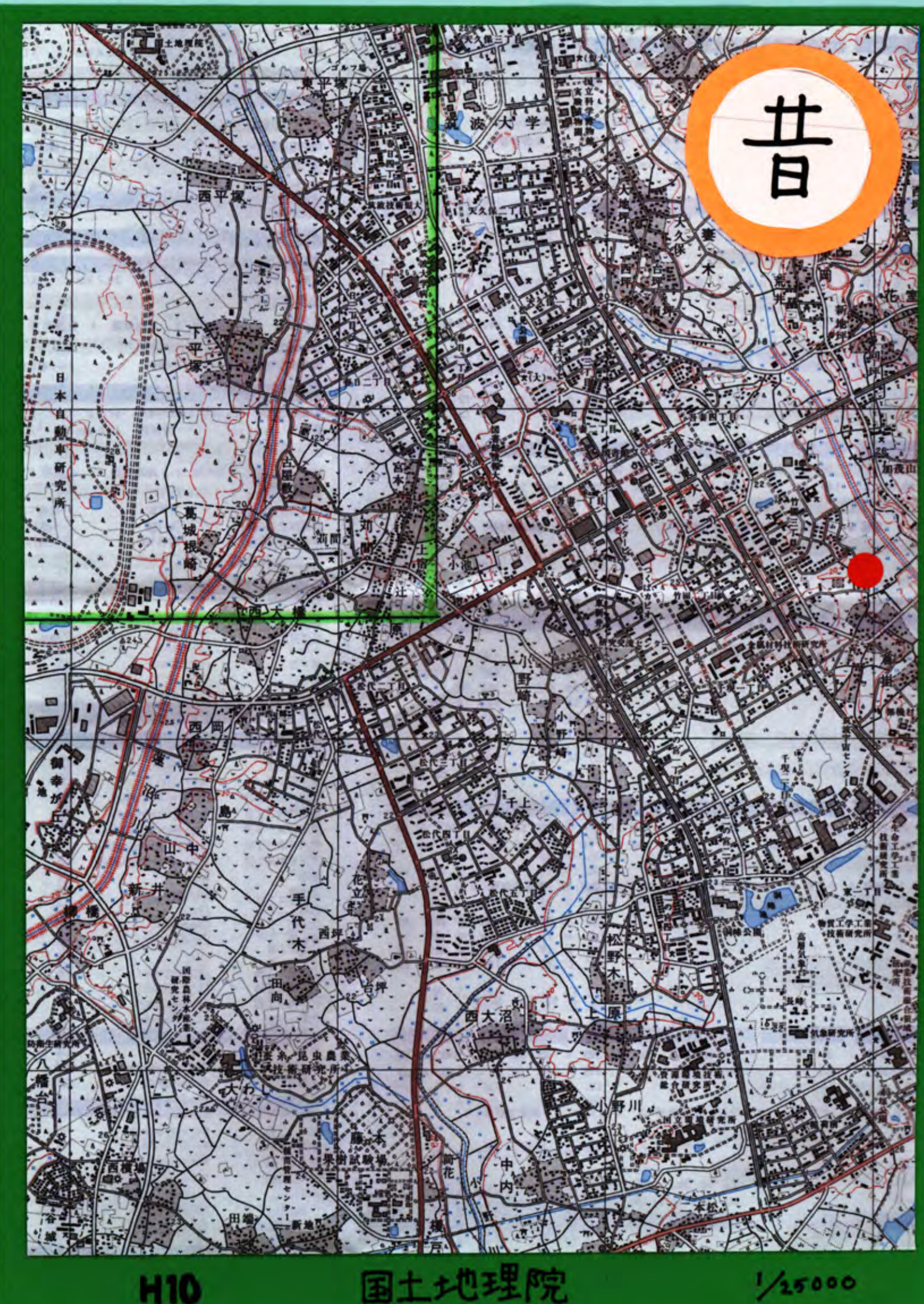
重機 僕はつくば駅の近くの倉掛という地域の軒先に住んでいるのですが、兄が夜遅くに帰るときは、つぐと大きなフクロウの家の前の電柱にとまると驚きました。それにより、野鳥に付き興味を持ち始めました。それから、野鳥を気にかけて生活をしています。ムクドリの大群や、スズメの群れなどを毎日空下校中に見かけることに気が立ちました。これは、以前僕が住んでいた、研究学園駅前のマンションにはないことでした。また、この香には、田舎の鳥の鳴き声の数が数倍に増えてしまったという、出来事もありました。しかし、立教大学特別研究員の三上修治さんの研究曰く、スズメが最近20年足らずで80%も減少していることが明らかになりました。それを踏まえると、僕の家の周りにはなぜこんなに野鳥が多いのだろうかと疑問に思いました。

目的 ここ数年の研究学園周辺の地域開発によって、野鳥の生息域に対してどのような影響があるのかを知る。

調査方法 2019年と1998年の地図を見比べることによってこの20年の間でのどのような環境変化があったのかについて探る。また、インターネット上の記事も参考に、自宅周辺のフィールドワークを行う。

つくば市の基本情報 2005年にTX開通人口は1980年に約12万7400人、1998年に約19万1800人、2005年に約20万人、2019年に約23万6840人である。僕の家の周りには、古い建物が多く残っており、農耕地や草場も存在する。

研究学園都市つくば周辺空中写真 1980年(昭和55年)10月2日撮影



研究学園都市つくば周辺空中写真 2019年(平成31年)4月13日撮影



調査結果

つくば駅周辺
つくば駅周辺には、20年の間の研究・教育機関が移転、又は新設され、その面積は合計約1400ヘクタールである。その敷地には、多く既存の雑木林が残っている。その雑木林は、多くの鳥の生息域となっており、その昆虫も多様化している。つくば駅周辺の各大通りには、広がり道路用のスガノ木が植えられている。

研究学園駅周辺
研究学園駅周辺は雑木林を切り開いてつくられている。イーストコーストなどの敷地には既存の雑木林は残されていません。国道十九号線や取手つくば線などの大通りには街路樹が植えられており、ありません。つくば駅周辺とは異なり、雑木林を利用した公園も少なくないです。

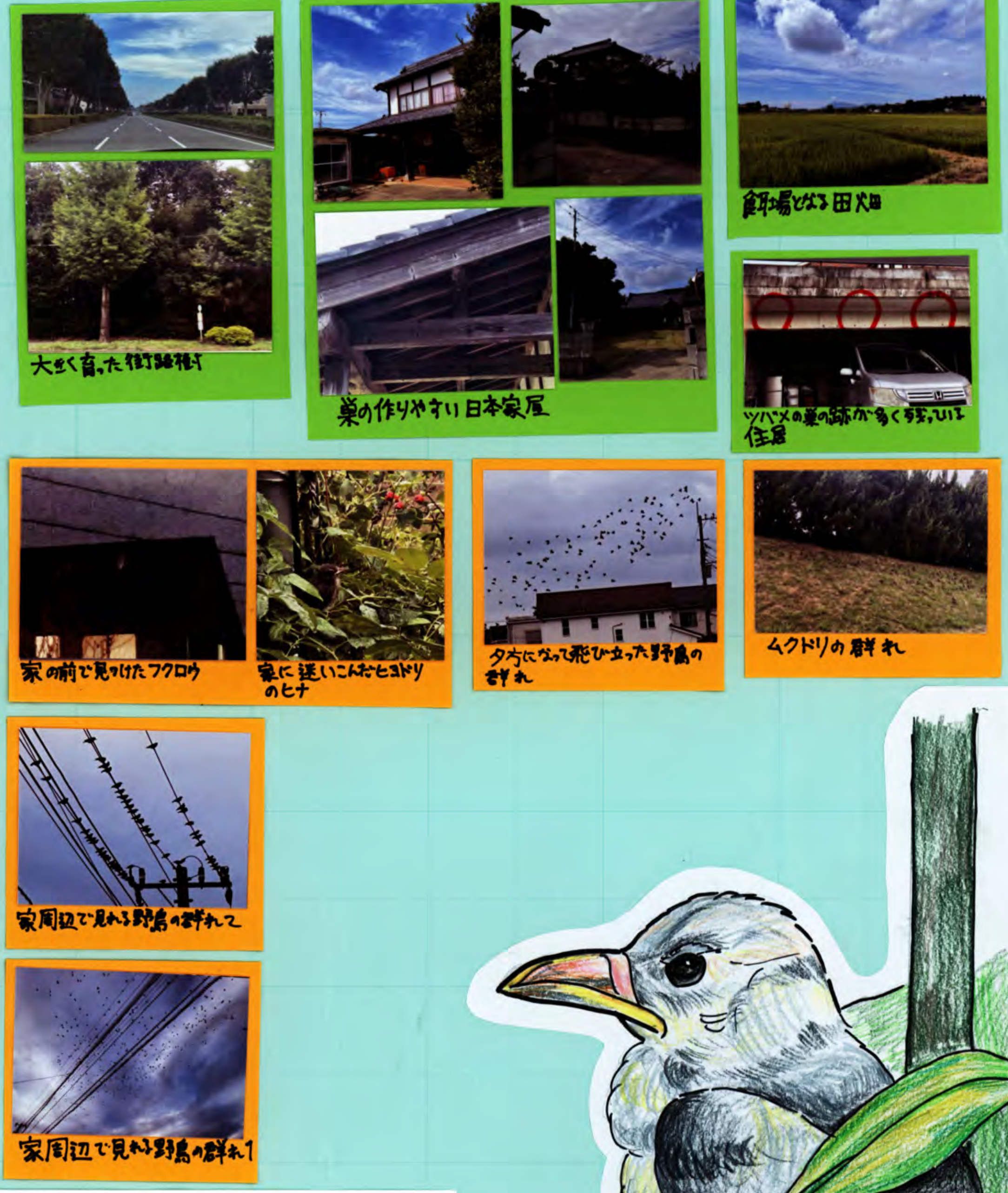
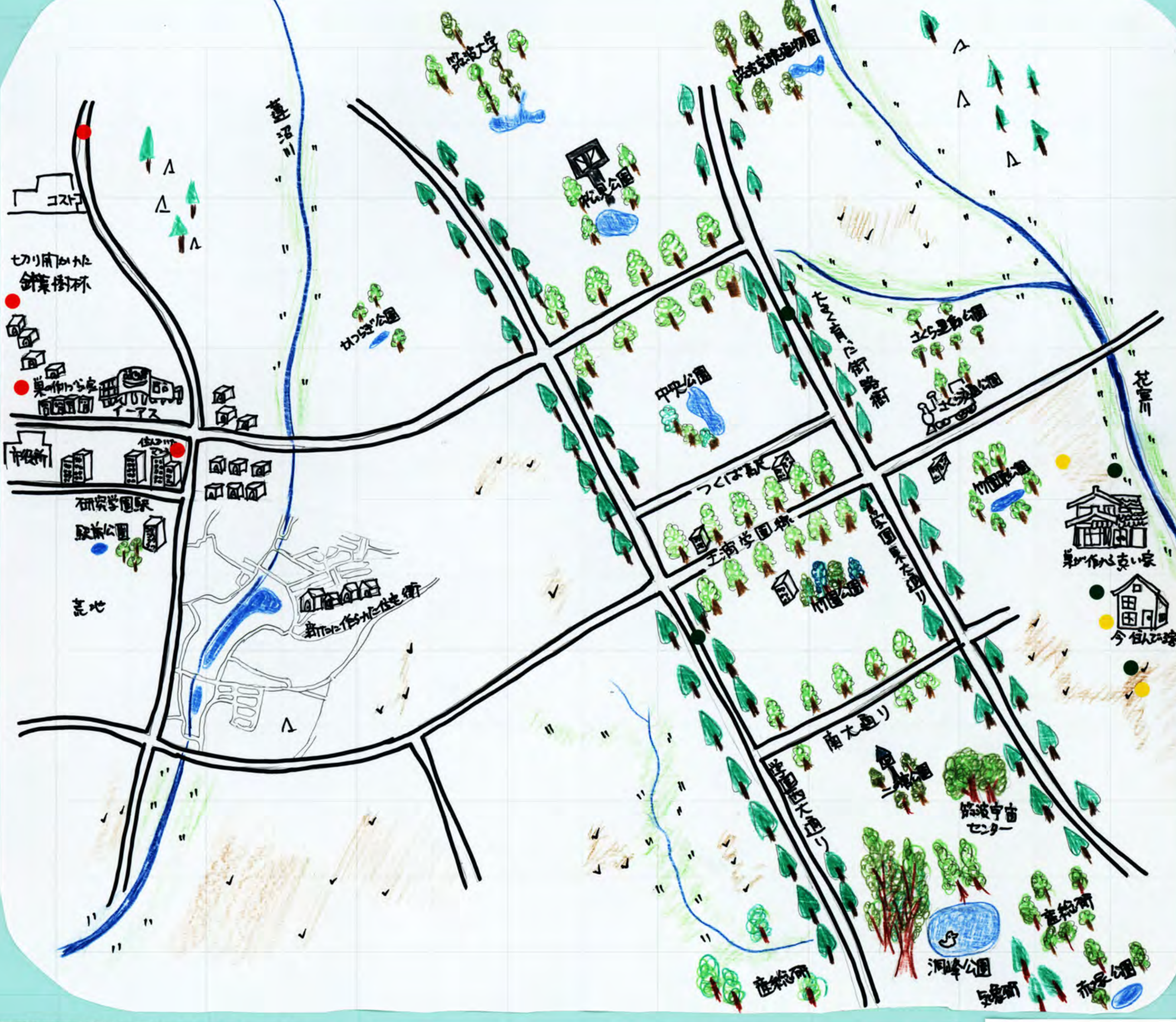
スズメについて

主な生息地: 日本では全国の都市、農村里などの人の居住区域で1年中見られる鳥だ。
スズメが80%も減少した理由
理由1: 巣を作る場所がなくなってきた。
理由2: 町の開発のため、森林はこの20年の間でものすごく減った。つまり、昆虫(食糧)の生息地が減った。つまり、このため、食糧を求めて、スズメ(野鳥)は都市部から減った。

フクロウについて

主な生息地: 平地から低山、亜高山帯にかけての森林、農耕地、草原、里山などに生息している。大木がある社寺林や公園で見られることも多い。
食性: 動物食で、主にネズミや小型の鳥類を食しますが、モグラやミミズなどのトリネズミ目、モモンガやリスも食す。また小型の哺乳類、カエルなどの両生類、爬虫類、カブトムシやセミなどの昆虫も食す。

	研究学園駅	僕の家周辺
家	新しく建てられ、少なくて、庭が狭い。	日本家屋があり、広大な庭がある。大きな木が多い。
公園	狭く、木も少ない。	広い水場がある。既存の雑木林が利用されている。
道路	街路樹がない。中央分離帯が広い。	街路樹用のスペースが広い。木が植えてある。中央分離帯に低い木が植えてある。



考察 研究学園地区は急速に開発が進んだため、野鳥の生息域が減少した。一方、つくば駅周辺は公園や研究所の雑木林が守られている。また、花見川周辺の田畑が、生物の生息域となっている。スズメなどは、人間の生活圏に近づき、多くの鳥の餌となる。また、スズメなどの鳥は、人間の生活圏に近づき、多くの鳥の餌となる。また、スズメなどの鳥は、人間の生活圏に近づき、多くの鳥の餌となる。

結論 僕の家の方が住みやすい。(野鳥にとって)。しかし、つくば駅周辺の1970年代に建てられた公務員住宅の老朽化が進み、再開発が進んでいる。その際に、多くの大木を伐採し、新しい住宅街が立ち上がり、新しい住宅街の高層マンションを作る。今後は研究学園地区と同じように野鳥が減っていく可能性がある。僕が住んでいたイギリスでは、例え自分の所有している庭木でも、剪定が難しく、伐採は難しいという法則がある。そのため、街路樹などには何百年も前の大木が少なく残っている。日本でもこれを参考にすれば、少しだけ野生動物の生息域を守ることができるとは思っている。

参考文献
ひおの珠玉記: 近頃スズメを見かけなくなった。何故か? (2022年8月13日)
ECC 都会で見かけたスズメの巣 (2022年8月9日)
統計で見た筑波研究学園都市の50年 (2022年8月9日)
「つくば市」の人口が33年も増え続けている理由 (2022年8月9日)
7700人の分布と形態 (2022年8月13日)
スズメの特徴は? 生態や分布、鳴き声は? (2022年8月13日)
(2018) 筑波研究学園都市 茨城県政策企画部地域振興課パンフレット

